

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.375

2022(令和4)年 5月10日(火)発行



■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できる気軽な会です。■ 結成は2005年12月。今年で17年目。隔月で会報を発行。会費は年千円。■ 会員は南相馬市原町区を中心に390名と増えています。

◀ 本会のシール(デザイン: 朝倉悠三さん)

今年の総会中止とします

6月19日に本会総会の開催を予定していましたが、コロナ感染が収まらない現在、3年連続で大変残念ですが今年2022年総会中止とします。「総会資料」は会報とは別に郵送いたします。ご理解ください。(事務局一同)

ウクライナ侵略に思う① <戦争は絶対にいけない>

2月24日から始まったロシアのウクライナ侵略について、会員さんや事務局員の思いを寄稿していただきました。

まるで火事場泥棒のような 改憲論や核兵器共有論

事務局長 早坂吉彦

◆ 私達は今、百年程前の世界にタイムスリップしているのかもしれませんが。日々伝えられるロシアの侵攻によるウクライナ国内の戦況(この用語をこれほど身近かに使っている自分に戸惑っています)は、現実世界には決して起り得ない、映画の中の“阿鼻叫喚”だと思いたい気持ちを抑えることができません。

時代錯誤の国家元首たった一人の命令が引き起こした、とりかえしのつかない悪業が次々に明らかになり、しかも二カ月間も続いているのを、私達はなす術もなくただ観ているだけです。一方ではおなじように核兵器や大量破壊兵器を保持し、強固な軍事同盟を結んでいるはずの欧米各国をはじめ、世界中の誰もがこの惨状を止めることができないのを、私達はどう理解すべきなのでしょう。そんな折も折、国内では「九条無力論」や「改憲論」、果ては「核兵器共有論」

など、まるで火事場泥棒まがいの言説をふりまわす調子者達がありますが、プーチンに対するのと同様の怒りを禁することはできません。

思い出しましょう。90年程前、我が国は柳条湖事件を侵略の契機に、中国大陆を支配すべく国を挙げて走り出したのではなかったでしょうか。しかもネオナチからウクライナの人々を解放するなどの名目ではじまった今回のロシアとほぼ同様の手口を使ってです。

と書くと、現代の日本では他国からの侵攻は想定されても、他国に攻め入ることなどあり得ない考える人がいるかもしれません。ほんとうにそう信じてよいのでしょうか。

私は正直混乱しています。混乱しながらウクライナの町で硬直した若い女性の死体が穴の中に投げ入れられているテレビの映像が頭の中に繰り返し思い出されます。



プーチンの言の葉峻し大国の驕りまざらざるは止まず
地下壕に逃げ込む映像いつの世も戦争は民を苦しめるのみ
日本にも海越え派兵した歴史「侵攻」という言葉の重み
(五月一日「朝日歌壇」より。元原町高校長柴崎茂さんの作品。)
いわき市・会員 吉田信雄さん

ウクライナ侵略に思う②

撃たないで あの平原とひまわりを

あの子らと母と 人のいのちを (原町区 Kazuさん)

◆本会では3月18日、南相馬市の全新聞朝刊に「NO WAR」のウクライナ侵略に抗議する反戦チラシを折り込みました。
すると会員のSさんから、自宅玄関にそのチラシを貼った写真、脇に平和を願う短歌を添えたハ右Vのハガキが事務局に届きました。ありがとうございます。ウクライナに平和を！



◆ 世界平和のために外交努力を

南相馬市 72歳 女性会員

◆テレビの映像は、モノクロームのウクライナの街を写し出している。ロシアの爆撃によるものだ理解するのに、そう時間はかからなかった。日本のテレビのレポーターが、ポーランドに逃げて来た老婦人にインタビューをした。逆に涙ながらに「貴方の国に避難するにはどうしたら良いの」と質問され、言葉が見つからず胸がしめつけられたと言っていた。3・11の得体の知れない放射能の恐怖に逃げまどった自分達と重なった。

私達の住む南相馬は、また強い地震が来ています。隣家の屋根は真新しいブルーシートで覆われていますが、新芽が息吹き爆弾は降って来ません。それでも心のどこかに放射能の恐怖は存在しています。

過去の惨禍の反省から強く平和を願った先賢人による「憲法9条」。「ヒロシマ」出身の日本のリーダーは、自国の憲法を誇り世界の人々の平和に最大の外交努力に尽力されますよう願って止みません。

昨日黄色のマーガレットを買いました。ウクライナの国の花ひまわりによく似ています。



戦争の火種は日本の政治家の中にも

事務局 石田賢二

◆7年前、「何か戦争の匂いがする。気のせいであってほしい」との投稿を読んだ記憶がある。それが現実の事となって世界に衝撃を与えている。

「人は何故戦争をするのか」日本においても戦争は国民が望むのではなく、国家に惹き起こされてきたことは沢山の事例が物語っている。過剰なまでの秘密主義報道や言論の検閲によって国民の行動力を剥奪している姿が見えているが、それが悪しき情欲を孕んでいることを、何時の時にも国民は知らず、プロパガンダに洗脳され、真実が見えず追従する。

今最も恐れるのは、ロシアの侵攻に乗じて、ヒロシマ・ナガサキを忘れ、あの塗炭の苦しみの後平和を望んだ中から生まれた「現憲法」を否定するようなポディブローを打ち込んでくること。「日本国憲法」前文に掲げる、崇高な理想と目的を達成しようと世界に誓ったことを、それによって国民の安寧を保とうとしたことを忘れたくないのです。

戦争の火種の匂いは、露・ウクライナのことではなく、日本の政治家の中に燻り続けているものだとは私は思っていた。

